



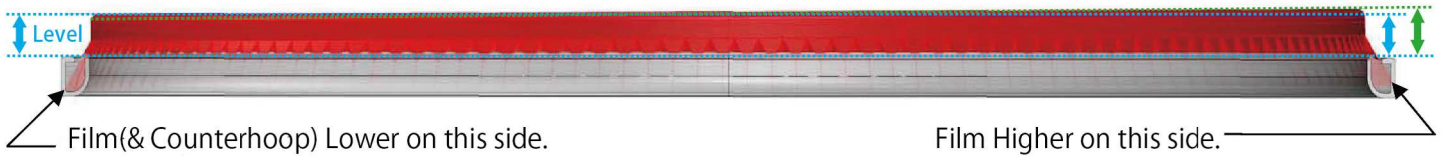
REMO DRUM HEADS

～Technical guide～



レモ・ドラムヘッドは、シェル(胴)の上にヘッド置いた状態でのフィット感のみを重視しているのではなく、カウンターフープを上置き、実際にヘッドにテンションにかけた状態でベストとなるよう設計されています。

■Flat(平ら)とLevel(水平)は違った事です。デフォルト(=出荷時)の状態、シェル(胴)に接する部分(=カラー)の形状が、きついカーブ(=鋭角な折れ目のついた)のドラムヘッドは、バラツキが生じてヘッドの金枠(=フレッシュフープ)に対して完璧に水平にはなりません。

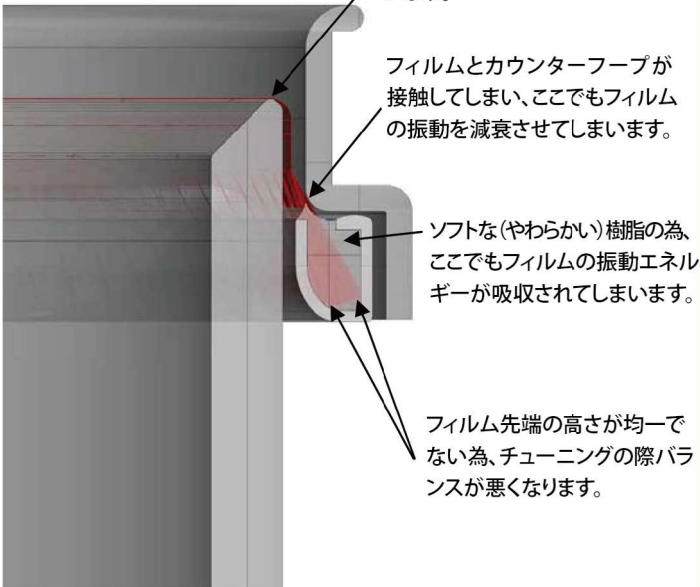


CHECK POINT!

- ①ドラムを振動させるということは、ドラムのシェル(胴)はもちろん、ヘッドのフィルムと金枠、カウンターフープ全ての振動を減衰させないということです。
- ②レモ・ドラムヘッドをカウンターフープにセットして、左右をなじませた時、ある程度のエクストラ・スペースがあることが確認できると思います。
- ③レモのステッパデザインは、シェル(胴)に接する部分(=カラー)の形状をあえて、ゆるいカーブ(=湾曲な折れ目)としており、サウンドの“踏切り板”として低いテンションのヘッドに対しても効果を発揮します。

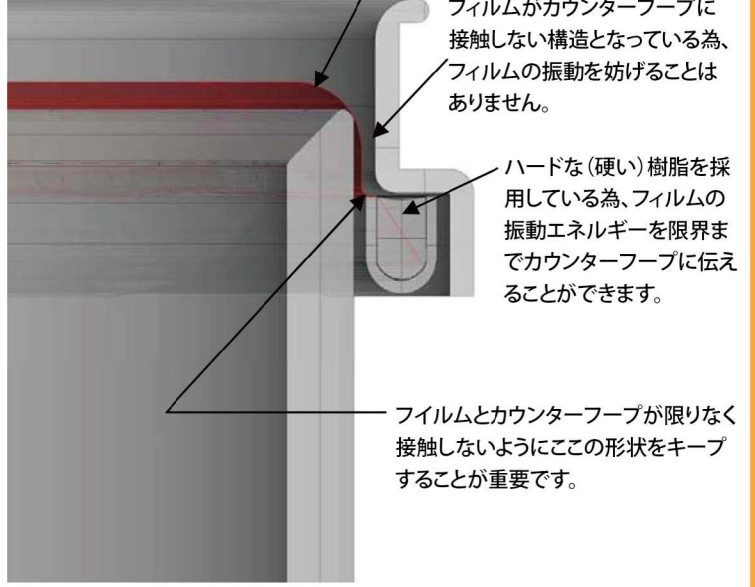
<通常のドラムヘッドの構造>

Pleated Design



<レモ・ドラムヘッドの構造>

REMO Step Design



このように、レモのカーブ・カラー(=湾曲した形状)のドラムヘッドは、よりフィルムに対してたわみを作り出し、その結果としてチューニングレンジが広く、幅のあるレゾナンス、そしてソフトなフィーリングをもたらします。

逆にシェル(胴)のエッジ部分にフィットしすぎるフラット・カラー(=鋭角な形状で、打面の端の部分までフラット)のドラムヘッドは、1次元的なフィット感でサウンドがよくても、ローテンションにおいて周波数は抑えられ、チューニングレンジも狭く、ヘッドがシェル(胴)に馴染んでくるほどサウンドは減衰していきます。

レモ・ドラムヘッドは、フィルムのテンションを張っていくことで、ヘッド、シェル(胴)のエッジ部分、カウンターフープの全てがフィットし、安定したサウンドが長く保てます。

＝レモ・ドラムヘッドは、シェル(胴)とのフィット感だけでなく、ドラムヘッドのフィルムと金枠、カウンターフープ全ての事を考えて設計しています。